

種目名	数学	選定替えの有無	有・無	選定発行者名		従来の発行者名	啓林館
-----	----	---------	-----	--------	--	---------	-----

発行者 観 点		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版
1 学習指導要 領との関連		数学が生活に結びついて便利になっていることを見いだし、問題解決の過程を大切にするとともに、事象を論理的に考察する力、簡潔、明瞭、的確に表現する力を養うよう編集されている。	知識・技能を習得できるように繰り返し学習できる編集になっており、それらを利用して、思考・判断・表現が高められるようにしている。また、話し合いや自分の考えを伝える活動が設定されており、主体的に取り組めるように編集されている。	誤りを見つけさせる問題を設定して基礎的・基本的な知識・技能を習得できるようにしたり、話し合いの活動を随所に取り入れて対話的な学びができるようにしたりするなど、確かな学力を身に付けられるよう工夫されている。	生徒自身の疑問が新たな学びにつながることを意識した「学びのサイクル」を通して、対話しながら自己の考えを深められるように編集されている。
2 「あいちの 教育の基本理 念」との関連		巻頭から社会との”つながり”をテーマとしたものとなっており、学習を進める中で、数学が社会とつながっていることに気付かせ、何が役立つのかを深掘りさせる内容になっている。	仕事のなかにある数学の紹介や自然や身のまわりのことと数学との関わりなどについて深める内容があり、数学が社会に役立つことを実感できる内容になっている。	身のまわりの題材や学習内容をさらに発展させた問題を数多く取り上げ、自らの学びを高めていけるよう工夫されている。	学習内容を実社会や日常生活などに関連付けることで、数学の有用性や学ぶ意義を実感できるようになっている。
3 内 容	(1) 内容 の選択	キャラクターのアイデアが問題を解くヒントとなり、問題解決の見通しを立てやすく、主体的に学習できるようになっている。	導入部分で、既習事項を用いた課題を提示することで、学びに向かう力を高め、主体的に学習できるようになっている。	新しい学習内容の目標から「Q」の問題解決、「次への課題へ！」と学習のつながりが意識され、数学的な概念・原理・法則を理解できるような工夫がされている。	「学習する前に」や「学習のまとめ」によって、既習内容との学びのつながりを意識したものになっている。さらに、側注の「もどって確認」で振り返りを促すなど、主体的に学べるように工夫されている。

		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版
	(2) 内容の程度	各章にクイックチェックが設けられ、理解度に応じて $+\alpha$ の練習ができるようになっている。また、章末問題では、基礎～発展問題が扱われており、習熟度に応じた取り組みができる。	「プラス・ワン」が様々なQの補充問題として準備されており、個に応じた学習ができるようになっている。章末だけでなく、節ごとに「たしかめよう」が準備されており、理解度を確認できるよう工夫されている。	節末には「確かめよう」で学習内容の定着が図れるように工夫されている。また、章末問題には、「基本」「応用」「活用」「深めよう」があり、個別最適な学びができるよう工夫されている。	内容に応じて「たしかめ」が設けられており、スモールステップで基礎・基本の定着を図ることができるとともに、巻末にはやや難易度の高い問題もあり、習熟度に応じた内容になっている。
	(3) 内容の構成	各単元「考えてみよう」で核となる部分を考え、学習を進める上で必要となる知識を理解し、例をもって手本を示し、実際の問いへとつなげる構成となっており、問題解決への道筋が分かりやすくなっている。	「めあて」が明確にされていることで、学習しやすく理解しやすい構成になっている。各章の導入や章末では、考え、伝え合う内容が多くあり、主体的・対話的で深い学びが進められる構成になっている。	既習事項の振り返りから新たな問題の提示、関連する次への課題を提示するなど、学びの連続性を意識した構成になっている。その中で、反復練習の機会を確保して学習内容の定着を図れるようになっている。	「問い」を中心とした構成となっており、吹き出しを手がかりにして問題解決ができる一連の学習スタイルで取り組めるようになっている。
	4 表記・表現及び使用上の便宜等	イラストによるヒント、キャラクターによるアイデアが適宜掲載され、生徒の興味を引く効果が伺える。各単元にQRコードが設けられており、内容の補足ができるように工夫されている。	写真やイラストにより、学習内容がしっかりと把握できる編集になっている。生徒が興味をもてるように、キャラクターの言葉が工夫されていたり、文字入りのマークで意味が分かりやすくしていたり、学習に取り組みやすい工夫がされている。	章末には「できるようになったこと」「さらに学んでみたいこと」を自分の言葉で振り返りができるよう工夫されている。	学習内容に即したイラストや写真等が適切に選択されている。QRコードから利用できるコンテンツが豊富に用意され、学習の理解が高まるようになっている。
	5 印刷・造本等	ユニバーサルデザインフォントを採用し、淡い色を基調として目に優しく、字体の行間も良く、見やすい構成になっている。同頁の中で、多くの色を使わないことで、大切なものが何かが見やすくなっている。	ユニバーサルデザインフォントの採用や色覚特性に配慮した4色刷り、文節改行などにより、読みやすく鮮明である。本文用紙も薄くて丈夫な用紙である。	ユニバーサルデザインフォントを採用するなど、見やすく読みやすい文字の大きさ、字間、行間に設定されており、印刷は鮮明で適切である。	ユニバーサルデザインフォントの採用や、配色や図の形状など、全体的に認識しやすさへの工夫が見られる。紙質は軽く、表紙は堅牢である。

発行者 観 点		啓林館	数研出版	日本文教出版
1 学習指導要領との関連		単元の導入場面では、身のまわりの問題を取り上げ、主体的に取り組めるような構成になっている。「説明しよう」「話し合おう」では、多様な考えに触れたり、筋道を立てて説明したりする場が設定されており、対話をしながら深い学びへつながるように編集されている。	SDGs の目標を数学の学習と合わせ、データの分析、過去から未来の状況の推測、既習内容から新しいものを論理的に導く設定がされており、思考力・判断力・表現力等を高めることができるよう編集されている。	「大切な見方・考え方」を示すことで、数学的な見方・考え方を働かせながら問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。「学びあおう」では、自分で考え、対話を通して学び合う問題解決の過程が示されており、協働的な学びの効果を高めるよう工夫されている。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		QRコードを利用することで、内容や例題の補足や解説を見ることができ、通常教育活動が行えなくても学び続けることができるようになっている。	今日的な課題やSDGsを取り扱うことで、「社会の担い手となること」の意義を数学の学習から見だし、学ぶ力を高めるよう工夫されている。	巻末にある「対話シート」を活用し、協働的に問題解決に取り組む場を設定することで、自他を認め合う学びができるよう工夫されている。
3 内 容	(1) 内容の選択	SDGs やキャリア教育、環境教育等に関連した問題を取りあげ、日常生活と数学を関連付けて考えられるような内容となっている。	章の導入で「ふりかえり」が用意されており、既習事項の確認をしてから本題に入るため、学びに向かう力を高められるようになっている。	日常生活等から問題を見だし主体的に問題解決する数学的学習を通して、数学のよさを実感できるように工夫されている。
	(2) 内容の程度	「学びをたしかめよう」では、知識・技能が身についたかどうか、「学びを身につけよう」では、思考力・判断力・表現力を伸ばせるように、章末問題が2部構成となっている。	「Link イメージ」で動画による確認ができ、つまずきの解消がしやすく、「Link 補充」で反復練習を個別に行うことができ、十分な補充学習ができる構成になっている。	既習事項とのつながりを意識し、繰り返し学習することで基礎・基本の定着を図ることができるとともに、巻末にはさまざまな種類の問題もあり、習熟度に応じた内容になっている。

		啓林館	数研出版	日本文教出版
	(3) 内容 の構成	「ひろげよう」「ふりかえり」を通して、既習事項をもとに考えたり、違いを意識したりして、新しい学びにつながるように構成されている。	キャラクターの対話が多く、参考にすることで、数学的活動が多く取り入れられており、自ら考え、学ぶ姿勢が育まれるように工夫されている。	めあてや問いが明確であり、1時間の流れが分かりやすい紙面になっているとともに、多様な数学的活動が行えるように構成されている。
4 表記・表現 及び使用上の 便宜等		QRコード利用し、図形やグラフを動かしたり、問題の解説を見たりすることができる。また、補充問題もQRコードで掲載されているため、基礎・基本の定着をはかることができる。	各単元にQRコードが設けられており、理解度を増す一助となっている。イラスト付きの色線で、小単元が区切られており、学習内容が見やすくなっている。	「次の章を学ぶ前に」で既習事項を確認する場を設けている。また、問題や説明文には、図や表などを適切に配置することで、分かりやすい構成になっている。
5 印刷・造本 等		ユニバーサルフォントを採用し、意味や文節による改行を行っており、読みやすくなっている。また、紙面の内容を判別しやすい配色になっている。	ユニバーサルデザインフォントを採用し、太字、配色、線の種類等で見やすくなっている。造本は堅牢で適切である。	ユニバーサルデザインフォントを採用し、配色や形、線の種類など視覚的に比較や区別ができるよう配慮されており、印刷は鮮明で適切である。